滞留問題解消へ向け

大ト協・海コン部会　役員会を開催

【大阪】大ト協海コン部会（山口与嗣雄部会長）は13日、大ト協で役員会を開き、滞留問題解消に向けたコンテナヤードなどへの協力要請などについて協議した。

山口部会長は「現在、様々な取り組みを行っている中でいまだコンテナヤードでの滞留問題は解消されておらず、行政などからも滞留解消の要請を行ってもらうためには、様々なところからの協力も必要。例えば政治家、国交省や地方運輸局までの連携が、滞留解消に向けた取り組みには必要と考えている」と説明。

さらに、オブザーバーの兵ト協海コン部会の佐賀里隆之部会長は「7時間、8時間も東京港では滞留が発生すると言われているが、滞留問題については阪神港、その他のコンテナ埠頭でも存在し、全国的な課題で、長時間労働につながっている。また、何十年も解消することなく現在でも続いている問題。われわれ業界が動くことも重要であるが、やはり国や行政が本腰を入れて動いていかなければ解消しない。部会だけでなく大協でも専門委員会を設置して真剣に問題解消に向けた取り組みが重要」と訴えた。

山口部会長は「自民党にはトラック議連が存在し、様々なトラックの問題にも取り組んでいただいている。海コン輸送の待機・滞留問題（京浜港、阪神港）を積極的に訴えていくためにも大協にも動いてもらうことは必要。国が定めるスーパー中枢港湾である京浜港・阪神港では長時間滞留解消に向けて働きかけていきたい。さらに、各方面から滞留問題を取り上げてもらうことで、大きな問題であることが表面化し、社会問題ととらえてもらうことが必要」と指摘した。

事務局からは「大協としても業界の待機問題などについての文章を出していくことも考えたい」と説明。

また、警察・国交省では今月末まで無車検車両取り締まり強化月間として取り組んでいることについて、山口部会長から「過去には海コン輸送でも無車検車が横行していたこともある。特にシャシーにおいては車検日時を忘れないためにも部会ニュースなどで適正に車検を受けるように告知していく」と説明が行われた。

（佐藤弘行）

理事会開催

待機時間記録を啓発

阪神港海コン協会

【阪神】阪神港海上コンテナ協会（山口与嗣雄会長）は15日、兵ト協で理事会を開催。昨今の業界における諸問題について協議した。

広報カー活動開始式典では7日、夢洲ビジター受付所前で役員8人が参加。その後、夢洲コンテナターミナルとC－9三菱へ渋滞に対する申し入れ書を持参し、手渡した。夢洲コンテナターミナルについては海コン業界団体と協議をすることは可能であるが、大阪地区では3ターミナルグループが存在し、全体での対応については調整を必要とし、同ターミナルのみでの協議は可能なニュアンスであったと報告。これを受けて、10月中での協議日程の申し入れを行うこととした。C－9三菱については、港運団体との協議が必要であるので、その後の対応となると回答されたことを報告。

また、広報カーでの拡声器を用いた広報活動では、「こちらは阪神港海上コンテナ協会です。このたび省令の改正により30分以上の待機時間記録が、義務付けされました。ドライバーの皆様は必ず記録しましょう。待機時間解消のためご協力をお願い申し上げます」と啓発活動を行っていく。

広報カー活動の期間である2か月後については、現行の巡回車1台にハンディビデオカメラを搭載して事務局員がシフト制で巡回する方法で検討し、次回10月の3役会議で理事会に諮る。

現行夜間パト活動については、神戸地区（ビジター受付所要員1人）と大阪地区（同2人シフト制）の両地で、週に1回ずつ行う。

国交省への懸案事項陳情については、10月初旬、訪問する予定で、海コン業界で抱える課題をはじめ今年4月から高速道路での車限令による減点（軸重違反）問題などに対して申し入れを行うとしている。

（佐藤弘行）